

近代の数寄者

名前	別号	人物略歴	没年
伊木三猿齋	宗玄、宗関	幼名:助作。本名:忠澄。 文政元年(1818)に岡山に生まれる。天保4年(1833)岡山藩筆頭家老伊木忠正の養子となる。 藩籍奉還後、岡山県大惨事などを経て、旧藩士のために尽力をつくす。 世情穏やかでない時期でも、茶事を催したり花器を購入したりと茶人の心を忘れることは無かった。	明治19年58歳没
上野理一	有竹	朝日新聞創業創業者 嘉永元年(1824)生糸商西垣屋の家に生まれる。 明治13年(1880)朝日新聞社へ入社。 のち経営を村山隆平と二人で行い、大阪の地方新聞社を全国的な大会社へと育てる。 美術の世界へ造詣が深く、日本の美術品が国外へ流出するのを嘆き私財を投じて美術雑誌国華を発刊した。 また自らも銅器玉書や中国などの古美術を愛好。	大正8年72歳没
馬越恭平	化生	ビール王、徳利大臣と呼ばれた 岡山県の医家に生まれる。 13歳の時、鴻池屋の丁稚に入った。 明治維新後、益田孝の知遇を得て三井物産に入る。 明治28年(1895)大日本麦酒会社の社長に就任。 日本ビール王と称された。酒の席や、茶会での逸話が多い。	昭和8年89歳没
大倉喜八郎		鉄砲店から大倉財閥を作り上げる 天保8年(1837)新発田の豪商の三男として生まれる。 10歳の時に江戸に出て店員となった後、神田に鉄砲店を開いた。 政府の御用商人として活動。西南の役、日清、日露の戦争で巨利を博した。大倉財閥の創立者。日本初の私設美術館として大倉集古館を創設し一般公開している。	昭和3年91歳没
嘉納治兵衛	鶴庵	銘酒白鶴で財を成した上方商人 文久2年(1862)奈良の旧家に生まれる。「白鶴」の嘉納家の7代目として奈良の中村家から養子に入った。鶴庵は鶴堂ともいい、通称は「白さん」と呼ばれた。陶磁を愛することで磁瓶とも名乗った。その集大成が今日、六甲山麓「白鶴美術館」である。茶は石州流で本庄宗云宗匠に学び、度々茶事を催した。	昭和26年89歳没
五島慶太	古経楼	古写経を愛した東急グループの創始 明治15年(1882)長野県に生まれる。東京帝国大学法学部を29歳で卒業後高等文官試験に合格し、加藤高明の斡旋で鉄道院に入る。目黒蒲田電鉄・東京横浜電鉄の役員に就任後、両者を合併。関東有数の私鉄に育て上げた。	昭和34年77歳没
小林一三	逸翁	阪急王国と宝塚歌劇団の創設者 明治6年(1873)山梨県甲府市に生まれる。阪急鉄道、阪急百貨店、東宝映画等を設立した。逸翁は茶を愛し、自ら表千家宗匠の生形貴一に就いき、お手前も堪能であった。逸翁の導き役を務めたのが高橋箒庵であった。又逸翁は俳句を楽しみ蕪村に私淑した。自らの住まいを雅俗山荘と呼び、ここで趣味人との交流を図った。	昭和32年84歳没

近代の数寄者

名前	別号	人物略歴	没年
佐藤助庵	柳亭 宗越 呉山	貴族院議員 明治29年生まれ 砺波市柳瀬出身 昭和6年 佐藤工業社長、会長 戦後北日本新聞社社長、美術館理事長 陶芸に浅野廉、鹿島青林らが着画、製陶に協力	昭和54年83歳没
住友吉左衛門	春翠 好日庵 知足斎 他	住友財閥15代当主。名門住友家近代化に尽力。 徳大寺公純の6男(西園寺公望の弟)に生まれ、若くして住友家の養子となる。 その趣味は茶道と青銅器に集中。コレクションは今日「泉屋博古館」という世界に冠たる美術館として残っている。茶道は裏千家で狩野宗朴、中川魚梁に学んだ。	大正15年62歳没
高橋義雄	箒庵	三越デパート創設者・で茶道研究家 明治15年慶応大学卒業後三井銀行に勤務し、鈍翁と識る。 茶道界では鈍翁のよき相手役として評論や執筆に活動した。 「大正名器鑑」は茶道史上の一大功績として評価されている。 著書「近世道具移動史」「東都茶会記」「茶道読本」なのがある。	昭和12年76歳没
田中市兵衛	得福亭	大阪商船設立 第四十二国立銀行頭取 日本綿花社長・大阪商船社長 大阪商工会議所会頭 米穀肥料取引所理事長 衆議院議員	
団琢磨	狸山	鉱山技師から財界の指導者へ 安政5年福岡県に生まれ、福岡藩士、団尚静の嗣子となる。 明治4年岩倉具視全権大使に同行しアメリカに留学。7年後帰国。 東京大学助教授を経て、三井炭鉱入社。益田孝と親しく交わり美術品の蒐集と茶道に励む。 フェノロサとの交友でも知られている。 小田原狸山にあった旧屋を購入。原宿に移して鼓腹亭と名づけた。	昭和7年74歳没
豊田善右衛門	聴雪	豊田産業を起こした人 最初の衆議院議員	
根津嘉一郎	青山 無事庵	会社再建の名人と呼ばれた鉄道王 山梨県の素封家に生まれる。 南海鉄道、東京地下鉄、東武鉄道、富国生命などの社長を兼ね、根津財閥を創り、貴族院議員に当選。 青山は茶の湯の実技的な面では高橋箒庵に多く指導を受けた。 東京青山の広大な庭園に弘仁亭、斑鳩庵、清溪亭、閑事庵などの茶席を設けた。	昭和15年79歳没

近代の数寄者

名前	別号	人物略歴	没年
野村徳七	得庵	証券界の飛將軍。野村財閥の盟主へ 明治11年大阪に生まれる。 27歳で家業の両替商野村徳七商店を継ぐ。 野村銀行、野村証券などを起こして「証券界の飛將軍」と呼ばれた。 趣味の中心は茶道、能楽、次いで絵画、旅行、造園。 茶道に入門したのは大正2年36歳の時であった。藪内節庵の門を叩き、やがて宗家にも師事。主に節庵の実兄で同家11代の透月斎竹窓に学ぶこととなった。京の南禅寺辺に誇る碧雲荘は日本造園史に残る名園である。	昭和20年67歳没
畠山一清	即翁	荏原製作所を総合機器メーカーに育てる。 明治14年金沢に生まれる。 大正9年に荏原製作所を創立し「ポンプの神様」の異名をとる。	昭和46年91歳没
原富太郎	三溪	生糸貿易の富豪。三溪園を築く。 明治元年岐阜の旧家に生まれる。 東京専門学校卒業。原善三郎の養子となり、生糸貿易を経営。 後に富岡製糸を買い受ける。三溪は鈍翁の特質と同じような茶の湯を踏まえたうえ、後の卓越した造園の才能を以って、路地ないし庭、茶室を包む茶の湯の場とし、ここに古寺院の跡という風趣を好んで演出した	昭和19年72歳没
平瀬露香	同学斎・桜蔭寺	実業家。大阪の人。 本名 亀之助 第三十二銀行頭取・日本火災保険会社社長などを歴任、大阪経済界の重鎮として活躍。 また国学・禅学を修め、俳諧・和歌・書画・茶道・能楽など諸芸に通じた。	明治41年70歳没
藤田伝次郎	香雪 芦庵 綱川	維新の風雲子 天保12年。萩の商家に生まれる。 高杉晋作のもとで奔走し、蛤御門の変にも加わっている。 維新後は陸軍御用商人へ。 明治14年商社「藤田組」を組織。鉱山事業を中心に鉄道、電気、紡績等の会社を興した。	明治45年71歳没
藤原銀次郎		王子製紙(株)の「中興の祖」。 明治2年長野市に生まれる。 福沢諭吉の慶応義塾を卒業したあと、三井銀行に入社。 明治44年、経営状況が悪化した王子製紙に、専務取締役として入社。 藤原工業大学を設立。商工大臣、軍需大臣に就任。 戦後は、私財を投じて、財団法人・藤原科学財団を設立。	90歳没
益田克徳	非黙居士	無為庵 益田鈍翁の弟で東京海上保険会社の支配人を長く勤め、古器の鑑識に長じた。 下谷根岸の別荘に茶席を構え「撫松庵」と号した。手捻りの茶碗を造る事に長じた。	明治36年54歳没。

近代の数寄者

名前	別号	人物略歴	没年
益田孝	鈍翁 観濤 雲外 宗利	三井財閥を育てた大茶人 佐渡で幕臣の子として生まれる。 鈍翁は茶の湯に仏教美術を取り入れた。晩年小田原掃雲台に閑居。	昭和13年92歳
松永安左衛門	耳庵	電力の鬼と呼ばれた反骨の財界人 長崎県壱岐の島の素封家の長男として生まれる。慶応中退後福沢桃介と共に貿易業を営む。久木庵、春草廬を立てて、耳庵流ともいうべき独自の茶を楽しんだ。益田鈍翁、原三溪に愛されてその衣鉢を継ぐ。実業茶人として知られている。	昭和46年97歳没
松本重太郎	叟軒	兵庫県出身。天保15年11月14日生まれ 嘉永5年、年少にして郷里を出て、京都・大阪の商家に勤る。 明治3年9月、23歳にして独立し、洋反物雑貨商を開き、丹重と称号した。 その後金融・鉄道・紡績など様々な分野において日本の経済界をリードし、多大な影響を与えた。	
三井 高保		嘉永3年生まれ 明治・大正時代の実業家。高福5男。 三井室町家の養子となり、家督を継ぐ。 三井銀行総長のち社長。	大正11没
三井高福	八郎右衛門	三井銀行の初代総長。 文化5年生まれ、三井北家の8代目。 江戸幕末・明治維新期の実業家、 鳥羽伏見戦争の際、朝廷側に献金。 業余書画を好み詩歌を嗜み又鉛筆を巧みにした。	明治18年78歳没
村山龍平	玄庵 香雪	朝日新聞を躍進させたマスコミ界の巨人 伊勢の国学者の家に生まれる。 大阪に出て明治12年「大阪朝日新聞」を創業。 上野理一と共に共同経営にあたった。美術専門誌「国華」の発行を支援。 美術蒐集では甲冑刀剣、仏教美術、中国の石仏、木彫仏、日本の仏画、木彫仏等を集めた。 明治35年大阪の実業界を中心に茶の湯の会を起こした。 晩年の龍平は事業の傍ら茶事を再々行った。香雪美術館も設立されたばかりでなく、毎年命日(11月24日)を期して追福茶会が催されている。	昭和8年84歳没
安田善次郎	松翁	勤儉をモットーにした銀行家 天保9年富山に生まれる。 27歳で独立。日本橋に乾物屋兼ねる両替商の店を持ち、屋号を安田屋といった。茶の湯は表千家を修めて、多くの茶会を催した。	大正10年82歳没
山口吉郎兵衛	滴翠	古陶磁とカルタを研究した銀行家 明治16年大阪に生まれる。慶応に学び、家業の金融業を継ぐ。山口銀行が三和に合併してから趣味三昧に入り、美術界にさらに大きな足跡を残した。茶を藪内節庵に学んだ。滴翠美術館設立者。	昭和26年68歳没

近代の数寄者

名前	別号	人物略歴	没年
----	----	------	----

関西の茶の湯の会メンバー

荒川又右衛門(得齋)・上野理一(有竹)・嘉納治兵衛(鶴庵)・坂上新治郎(捨翠)・住友吉左衛門(春翠)
高谷恒太郎(宗範)・田中市兵衛(得福亭)・田村太兵衛(友松)・豊田善右衛門(聴雪)・西村輔三(滴緑)
藤田伝三郎(香雪)・松本重太郎(叟軒)・村山龍平(玄庵)・山中吉郎兵衛(春舘)